

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム もたい

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム もたい		
所在地	〒029-4203 奥州市前沢生母字中道3-2		
自己評価作成日	令和5年10月7日	評価結果市町村受理日	令和6年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○自己で全て介助するのでは無く、声掛けし残存機能を活かしたケアを行っている。
 ○利用者様の視点で質配り気配りをし、状態観察している。
 ○理念を毎朝唱和し、質の向上を図っている。(その人を見ている重さ(量))
 ○介護度が上がり重度化に繋がったとしても、本人、家族様の意見を尊重、重視し介護にあたる。
 ○介護記録を電子化(タブレット使用)したことにより、業務効率化に繋がっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旧前沢町の中心地から東部の、北上川沿いの農村地帯にある1ユニットのグループホームであり、敷地内には系列のデイサービスと居宅支援事業所がある。「やさしいあいづち、こぼれる笑顔、感謝の言葉」の事業所理念は職員に浸透しており、利用者の出来ることに上手に働きかけ、生活意欲を高める支援を心がけ、ご家族からの信頼度も高い。毎日の食事も手作りで提供し、朝夕は職員も一緒に食卓を囲んでいる。業務支援の介護ロボットを早期に導入し、職員の介護負担の軽減を図り、オンライン研修も積極的に活用し、研修機会の確保に努めている。水害危険地域にあり、市内の系列グループホーム(2ユニット)への避難訓練も実施しており、万が一の避難先も確保出来ている。一方、利用者の重度化が進行しており、今後、重度化・看取りへの対応充実と、日常的な地域との交流がコロナ禍で途絶えており、災害対応も含め地域連携の再構築を図ることで事業所力の向上が期待される。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年11月8日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分の事は自分で出来る様にする」と方針に基づき、そういう立場の時に率直に言葉に出して言える様に「やさしいあいづち、こぼれる笑顔、感謝の言葉」を唱和している	職員は、利用者の残存機能を活かす働きかけ心がけており、支援の軸となる理念を毎朝の申し送り後に唱和している。職員が笑顔で接し、利用者が行う役割に感謝の言葉をかけることで、逆に利用者の笑顔がみられ、ありがとうの言葉が返ってくることもある。年度初めの内部研修で職員アンケートを実施し、「理念の振り返り」を行った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流の場面は少なかったが、理容、訪問歯科診療を行なった事で外からの風を取り入れるだけでは無く、こちら側もそれを受け入れた様に思う	今年度も、地域の夏祭りや秋の地区祭りは開催されず、利用者が地域の方々と交流する機会は殆ど無かった。地元の自治会との連携を強化し、交流機会を増やすことは、ここ数年来の課題であったが達成されておらず、コロナ禍で従来交流のあった幼稚園児や高校生の来所も途切れている。	同一敷地内のデイサービスや居宅支援事業所も含め、事業所開設当時から多くの地元高齢者がサービスを利用してきたと思われます。今後、自治会への加入や自治会長等の運営推進会議への招へいなど、地域との繋がりを充実し、地域の一員として相互に交流出来る基盤作りを進めることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との接点が少なく、散歩等でコミュニケーションを取る位しか出来なかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初めて委員になった方がおられ、グループホームの活動、認知症の方との関わりも初めての方がおられ、活動、生活を紹介する事で認知症の人達が、ごく普通の生活が可能だと言う事を知り得てくれた	新型コロナウイルスの5類移行後、書面会議開催から通常開催に切替え、事務室で開催している。会議資料には、運営状況の報告、隔月発行の写真を駆使した事業所便りも添付されている。利用者家族、民生児童委員、学識経験者、市町村職員に委員を依頼し、事前に年間の開催日も決めている。市町村職員からの「事業所活動の振り返りを、次年度に活かす取り組みを」との提案を受け、年度末に職員を対象とした振り返りのためのアンケートを実施し、翌年度の目標設定に活かす取り組みを進めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ時期、運営推進資料を配布し、その時、担当者からの意見シートに意見、アドバイスを頂き、それを元に職員で話し合い支援に務めている	運営推進会議委員には、前沢総合支所市民福祉グループ長に依頼しているほか、日常的な相談や介護認定更新手続きなどは、必要の都度、前沢総合支所の担当者を行っている。今年度に発生した苦情相談事案では、本庁長寿社会課とやりとりした。介護相談員が年2回来所し、利用者と面談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動、心理症状が発生した理由、原因背景等は理解している。しかし事故防止、安全の確保に繋げる為に、利用者様、家族様に十分説明し対応方針を行っている(例として頓服薬)時もある	入居して約1ヵ月程度の事業所に不慣れな時期には、事故防止と生活リズムの把握のため、家族了解の上でセンサーマットを使用している。内部研修は年4回計画し、事故やヒヤリハットの報告は3ヵ月に1回まとめて行っている。管理者がスピーチロックを確認した際は、その都度注意喚起に努めているが、職員間で気づいた際の対応方法が課題となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議時、勉強会を必須として学んでいる内で、虐待についても学んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族がすべてにおいて利用者様の金銭管理、病院受診等に積極的に関わって頂き、安心して生活を送れる様にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時は、書面で説明、及び同意書の返送をお願いしている。訪問時にも、再度説明を行っている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の思いを支えると同時に、家族様も支援が不足している部分に力を足してくれる職員と同じ一員である旨を話し、目標達成に近づけて行ける様に一歩ずつ進んでいる	ご家族から事業所運営に関する意見や要望は出ていないが、個々の利用者に関して、日常生活での職員の支援や留意点について話されることが多い。また、利用者からは、コロナ禍での外出制限が長く続いたため、「今度いつ出かけるの」などの外出希望の話が出されている。また、コロナ禍以前に開催していた殆どのご家族が参加されていた「夕涼み会」や「クリスマス会」については、今後の事業所活動としての再開を検討している。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護にあたって不足用品(例、感染症)を補充して実践している。家族控室も増設し、利用者、家族の絆を繋げている。管理者は、「介護実践リーダー研修会」に参加し、「続けられる状態を作る」為に仕事の要求度だけでなく、どれだけ任されているか？を、職員自身が仕事への満足感を得られているかを目視している。	職員からの提案で、感染症対策としてアコーディオンカーテン開閉の徹底や、家族控え室の増設などが具体化されている。職員会議は毎月1回開催され、都合がつく場合には社長も出席している。重度の利用者が増えており、入浴介助支援の福祉機器増設や省力化の必要性を上層部に伝えながら、職場環境の充実に努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションを高める為に努力している事を肯定的に評価する為に直接その場で本人の話す様に務めている	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市から研修会等の案内が届いた時にはオンライン等で参加の呼びかけをしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奥州ブロックが広範囲になったため、以前より参加する機会が無くなった。管理者は以前の方々と繋がりを持ち意見交換をしている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い、考え、声を聴き、受け止め明るい気持ちで微笑みを浮かべながら接している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には家族様の不安は計り知れない物を感じ取れます。その思いを払拭出来る様に務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時には、本人、家族様により、「今の現在」の支援内容を聴き対応し、又日々の状態の変化に応じて支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	指示されていてその状況に応じて増減している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、祝日等には足を運んで頂き、本人の活力サポートとしてプラスになっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族面会室を利用し、家族、親類、友人様方から、信頼、思いやりなどを得られ、心理的な安定を保てる様働きかけた	入居から年数が経過し、利用者やご家族も高齢化により馴染みの店への外出や、盆正月の帰省、墓参り等の外出も少なくなってきている。約半数が地元以外の入居者で、ふるさと訪問は実施していない。隣接するデイサービスの利用者との交流機会を持っていたが、コロナ禍の流行の時期から交流を中断している。携帯電話を利用し娘さんと会話をしている利用者が1名いるほか、最近、利用者の友人から面会に関する照会があった。	

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	隣、向い同士の方々は、互いに何を必要としているか理解し手を出してあげている行為見られ、逆に気づかない時にはフォロー入れてあげる様になっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居をされてしまうと、関係性は遠のいてしまっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ない事ではなく、本人が出来る事を広げられる様に務めている。意向が難しい人には顔の表情、視線の方向、手等でその人の意見をつかむ様に行っている	認知症の進行により、意思確認が困難な利用者が3名おり、顔きや返事の様子等により本人の意向把握に努めている。朝、出勤直後の声かけ後の返答のトーンや表情等で、微妙な気持ちの動揺を感じ取り、その後の対応を丁寧にするなど、工夫した支援に努めている。会話が可能な利用者は、マンツーマン介助となる入浴時に、様々な話をし、思いや意向を把握出来る機会ともなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員と食事、レクリエーション行動等を共同で行い、家庭的な場とする為に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特変等があった場合は、夜勤者に口答申し送り、状況確認の指示、他はタブレット入力を確認する様に話している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のその時状態により、適したサービスが提供出来る様に繋げ、修正継続に的確に結びつく様に、具体的なサービスを提供した	初回の介護計画を作成後、状態が落ち着いている利用者の計画見直しは、概ね6ヵ月毎としている。モニタリングは、介護支援専門員と居室担当者が一緒に行い、職員会議時にケアカンファレンスを行っている。家族の意向は、利用者の受診同行で来所された際に確認している。日常生活でのタオルたたみや、配膳片付け、趣味活動等も介護計画に位置付けている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	薬服用、処置等の変更時申し送りノートに記載し共有、タブレットにも入力し確認。それに基づきサービス提供等に盛り込んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況が進行し、対応に家族様が困った時、相談の応じて不安を取り除く様務めた		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部との接触が難しかった為、近所の産直、牛舎等に散歩がてら出かけ会話をこころみた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診時には、健康状態、生活面等を記録(バイタル表)し、持参し医師に情報提供し指示に基づき支援し、継続的な医学管理を受ける事で重症化になる前に対応を受けられる	入居後も、かかりつけ医はそのまま変えず、家族対応で治療を継続している。受診時には、1ヵ月分の血圧値等が記録された書類を家族に提供し医療機関に持参している。循環器専門医を受診する利用者には、脈拍値やSpO2(酸素飽和度値)も追加している。義歯作成が必要な利用者には、地区内の歯科医師の訪問診療が利用でき家族からも喜ばれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づき等はその場で、看護職員に報告し対応している。他の職員にも共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医とは入院時、途中経過、退院時等には面談、又は電話をしその情報を家族様と共有出来る様にしている		

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段と違う状態が見られた場合、家族様に状況報告し、医師の指示、意見を元に支援している。第一に本人、家族様との繋がりがとどまらないケアに努めた	調査時点で、介護度4の利用者が2名、介護度5の利用者が1名入居しており、日常生活で居室からホールやトイレの移動時に、4名が車椅子を利用している。利用者の重度化が進行しており、特別養護老人ホームへの入所待機中でも、出来れば最後までお世話になりたいというご家族も少なくない。医療面の協力と事業所体制を整えることができれば、看護師資格の職員も複数在籍していることから、希望を叶えられる状況にある。	利用者の重度化が進行してきており、の職員研修の実施や対応方針の統一化と併せ、協力医の確保等、関係機関の協力も得ながら、終末期の対応を充実されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例としてBDが上昇など等が見られた時は上申書に報告。医師の指示を仰ぎその指示に基づいて施行。急変時看護師との連携を即座に施行		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練(2回)、水害対策(1回)、夜間想定(避難)(1回)、実施。運営推進会議の時に実施して、意見等を取り入れ対策している	今年度は、運営推進会議時に夜間想定訓練を実施し、委員には事業所の実際の取組みを確認していただけた。避難路の段差の問題や照明不足等について意見が出されている。水害対策として、必要物品を持参しながら系列グループホーム(2ユニット)への避難訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係を築く為に、日常生活の場で聴き方の技術に努めた。理念と同様あいづちを示しながら共感、熱意を伝える事に務めた	他の事業所に比べ男性利用者が比較的多く、また若年の女性利用者も入居しているが、異性介助の拒否は無く、トラブルも起きていない。排泄の失敗時には、小声で対応したり、ホール内での排泄臭には迅速に対応するなど、利用者の羞恥心に配慮している。職員は、利用者の小さな行動にも謝意を伝え、「やさしいあいづち こぼれる笑顔 感謝の言葉」とする理念に沿った介助を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けせずとも自らホーム内運動したり、好きなテレビ番組の時間が来ればホールにてテレビ鑑賞されている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のスタートでその方の状態の変化に気づき会話から読みとり、その通りの1日になる様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	病気受診、行事等時には普段とは違う装いをし て気持ちが高ぶる様にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食した食器を運んでくれたり、季節の物を用いて料理をすることにより、会話の幅が広がっている	朝食と夕食は、職員も利用者と一緒に食事をしている。3食とも手作りの食事を提供しており、季節毎の行事食も年間の計画に組み入れられている。職員が持参したフキの皮取りをしたり、プランターで育てた野菜を食材に用いている。正月には、餅の代替えとして団子にあんこを添えたり、たまご酒を提供したりの工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量の用紙記入し、体調変化、管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア自立の方は、促さなくても自ら行っている。全く歯のない方は、舌を磨き、その確認を職員がチェックしている。必要に応じて訪問歯科に診て頂いている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見て、声掛けを促すと共に、介護ロボットの利用による、介助に努めている	利用者の排泄間隔の長さや介護ロボットでの体動確認により、排泄の失敗を少なくし、トイレでの排泄支援を心がけている。介護ロボット(眠りスキャン)は9人全員が利用しており、昼夜共に、起床(体動)時には音が鳴る仕組みとなっている。尿意による離床確認としても活用するなど、1人体制の夜勤時に職員の力になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	指示されていてその状況に応じて増減している		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は1対1で対応できる1番のコミュニケーションがとれる場なので時間を大切にしている	午後にゆったりとした時間を過ごせるよう、午前中に入浴している。職員とマンツーマンでの介助を受け、湯船につかりながら、これまでの暮らしや本人の思い、思いがけない昔話を聴ける機会ともなっている。週2回の入浴を基本としているが、排泄物での汚染時には、その都度入浴、シャワー浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで時間その物をケアとして組み立てている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	錠剤が服用出来なくなった方には、受信時にその旨を記載し粉にして頂いたり、症状変化等に気をつけ報告に務めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の動きを見ていて、以前にお願いした事を自発的に行動を取ってくれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、不穏時等には散歩したり、ウッドデッキに出て日光浴を行って少しでも気持ちが安らぐ様務めている	土日開店の近くの産直や牛舎まで、気分転換を兼ね外出している。隣接のデイサービスのワゴン車を利用し、春の花見や秋の紅葉狩りにドライブしているものの、冬期間の外出減少や介護度の高い利用者の外出が歩行自立者に比べ少なくなる傾向にあり、課題となっている。身体状態が低下し、殆ど臥床している2名の利用者も食事時には離床し、介助を得てホールで食事を摂っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理されている。「○○食べたい」との訴え時は家族様に連絡を取り、持参して頂いている		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム もたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込んでいる方には、自由に話して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内、浴室、トイレ等にも、絵、文字等を貼り、それぞれが見て感じ取ってくれている	共用ホールは南向きで、天気の良い日は日差しも奥まで入りとても明るい。ウッドデッキも広くホールから自由に入出入りしている利用者もある。絵の得意な職員が描いた利用者全員の似顔絵(笑顔)が掲示され、ほっこりした雰囲気を出している。ホールから廊下、居室まで床暖房設備となっている。車椅子利用者が多くなり、テーブルの配置は移動を優先とした配置になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にイス、ソファを置き自分の時間に使っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前、入居中も本人の意見を重視し生活して頂いている	居室内には、1間の収納スペースがあり、自宅からの持込み品を収納し、居室内はスッキリとしている。ベッド、エアコン、空気清浄機が備付けられているが、思い入れのある古い高級タンスを持込んでいる女性利用者もいる。車椅子利用の男性利用者の部屋の壁には、顔の高さに鏡と足元に髭剃器が取付けられていた。2名の利用者が携帯電話を持込み、3名の利用者はテレビを持込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食した食器の下膳をキッチンまで運んでくれる利用者様の危険物撤去(服用した薬も自己で捨てる)		